

# 空から奄美の大自然を満喫—— 新たな観光資源のパラグライダー



大空を飛びながら島の大自然を満喫できるパラグライダー。

奄美の新たなスカイスポーツとして、パラグライダー愛好家や観光客を中心に人気を呼んでいます。

今回は、日本ハング・パラグライディング連盟公認インストラクターで「奄美飛人（とびんちゅ）クラブ」会長である山田直樹さんに、奄美の新しい観光資源として可能性を秘めるパラグライダーの魅力について伺いました。

## パラグライダーで、 奄美の絶景を満喫

元々、ヨーロッパでアルピニストの登山の降下手段として始まったとされているパラグライダー。日本では1980年代ごろから次第に普及。近年では奄美でも人気の観光メニューの一つとして、テレビ番組などでも紹介されるようになりました。

奄美では、北部の赤尾木・安木屋場・用岬・手広などでフライトが行われており、季節・天候によって飛行できるエリアは変わります。

「奄美の上空を遊覧飛行すると、美しいサンゴ礁に囲まれた海を眺められ

ます。ウミガメやクジラに出会うこともありますよ。空を飛んで怖いというよりも、むしろ「癒やし」のスカイスポーツです。」と話すのは、パラグライダー愛好家で構成された「奄美飛人（とびんちゅ）」クラブ会長の山田直樹さん。

パラグライダー歴14年のキャリアを持ち、現在パラグライダースクールのインストラクターとして勤務しています。

また、観光客向けに約20分の2人乗り遊覧飛行（タンデムフライト）も実施中です。遊覧飛行では、ハーネスとというイスに乗り、ライセンスを持ったスタッフと一緒にフライトします。

利用者は、ほぼ観光客。特に20〜30

代の若い女性が多いとのこと。「ベストシーズンは、7月ごろ。天候条件が良ければ、ほぼ一年中楽しめます。体重が30kg以上であれば子どもでも乗れますし、健康で軽く運動ができれば、年配の方でもOKです」と山田さん。

「遠くからだ、ただ空に浮いているように見えるかもしれませんが、実際は、車でいうアクセル・ブレーキ・ハンドルの役割を持つ「ブレークコード」という2本のひもを使って、右のひもを引くと右へ旋回というように、自由自在に操作しているんです。まさに、鳥のように飛んでいるんですよ」と話します。

パラグライダーはただ高いところから降りていくだけではなく、上昇気流をつかみ、乗り継いでいくことで、高く遠くへ飛んでいけるスポーツ。

「地形に対し、風が直角に当たっている場所が上昇気流に乗れるポイント。また、温かい空気は上に行くという性質を利用して、集落の屋根の上などで生じる「熱上昇風」が発生しそうな場所も狙います。奄美では、約1000mまで飛べると言われています。私も最高約800mまでは上がった経験があります」と山田さん。

鳥のような目線で、空から海や山など奄美の絶景を一望できる感動は、パラグライダーの醍醐味といえます。

## profile

山田 直樹（やまだ・なおき）

【出身】 奄美市笠利町赤木名

【職歴】 平成4年 航空自衛隊入隊  
ジェット戦闘機整備士として、11年勤務  
平成15年 退職

その後、奄美に帰郷し実家のもずく養殖を手伝いながら、パラグライダーの腕を磨く

【資格】 日本ハングパラグライディング連盟（JHF）公認インストラクター

【所属・主な活動】 奄美飛人（とびんちゅ）クラブ 会長／パラグライダースクール・インストラクター／2人乗りパラグライダー遊覧飛行／

【ご連絡は電話で】

☎ 0997-63-8810

携帯電話：090-5749-9413



## フライトで味わえる

### 感動をより多くの人に

「最初は、高いところが苦手だったんですけど」と話す山田さん。高校卒業後、宮崎の航空自衛隊でジェット戦闘機整備士として勤務していました。

元々、飛行機が好きで整備の側に携わりましたが、「自分も空を飛んでみ

たい」という気持ちになり、安全で気軽に始められるスポーツだと感じていたパラグライダーに挑戦。スクールに入ってから実際に飛ぶと、ふわっと体が浮き上がる感覚、空からの景色に感動し、次第にのめり込んでいきました。

「奄美に帰郷し、実家のもずく養殖業を手伝いながら、最初は趣味で飛んでいました。そのうちに、一人で飛ん

だときの感動を他の人にも味わってもらいたい」と感じ、遊覧飛行を始めました。

実際のお客様の反応を尋ねると、「お客様は最初、空を飛ぶ不安から口数も少なく、緊張した面持です。しかし、空を飛ぶと一変し、言葉よりも表情でその感動が伝わってくるんです。そのギャップの大きさに驚いています」とにっこり。

大好きな故郷・奄美の美しい景色を、島外の方々に伝えられるパラグライダーの仕事にやりがいと魅力を感じています。

南西諸島・奄美ならではのサンゴ礁が広がる透き通った美しい海を上空から楽しめます



赤尾木クレータービーチとピラ・手広海岸の2つの海が見えるポイント

奄美大島でも、パラグライダーの愛好家は年々増加。パラグライダー業界では、専門のスクールで学び、実技と筆記試験に合格すると、レベルに応じた技能証を取得できます。

2010年まで、山田さんはタンデム証を持っており遊覧飛行はできませんでしたが、安全・信頼性を高めるという点で、しっかりとした指導者の必要性を感じていました。

同年、福岡に足を運び、スクールの構えてライセンスを発行できる「インストラクター証」を取得しました。

2011年12月現在、奄美飛人クラブでインストラクター証取得者は山田さんのみ。「教える側になってから、生徒の成長していく姿を見られるのがうれしい」と話します。山田さんは、遊覧飛行スタッフ、インストラクターという2つの立場から、フライトで味わえる感動を広げ続けています。

## 人の命を預かる責任の重さと安全性

一人で飛んでいたときよりも、遊覧飛行の実施やインストラクターとして

## テイクオフ場近隣の集落の方々へ恩返し

山田さんは、パラグライダーのテイクオフ場に近い集落の方々へ、「普段空を飛ばせていただいている恩返し」として、集落の方々との交流の場も設けています。

2010年のクリスマスには、冬場にテイクオフ場として利用する安木屋場集落の浜で、サンタの格好をした奄美飛人クラブのフライヤーが、空から子どもたちにお菓子を配りました。親子連れで20人ほどが集まり、喜んでいただけようでした。

今後は、テイクオフ場近隣の方々を対象に、浜で数mふわっと浮かせるパラグライダー無料体験も検討しているとのことでした。

「私が初めてふわっと浮いたときの感覚は今でも覚えているくらい、すばらしい経験でした。なので、集落の方にとっても、楽しい体験になると思いますよ。実際に機材を触っていただいで、パラグライダーってどんなものなのかも知っていただきたいですね」



ハーネスを装着し、安全確認を行っているところ

指導する立場になってから、山田さんは命を預かる責任の重さを痛感しています。

パラグライダーの遊覧飛行が奄美の観光メニューとして定着するためにも、安全であることは、何よりも重要です。フライト時は、その日の天候や現地の状況、パイロットとしての経験等から、安全に飛べるコンディションかどうかを見極めます。さらに、機材を念入りに点検し安全には万全を心掛けます。「お客様には、恐怖心を一切なくして、鳥になった気分だと思いつき風景を楽しんでパラグライダーの魅力を感じてほしい」と話します。



クリスマスシーズンには、テイクオフ場近くで子どもたちにお菓子を配ります

また、山田さんの今後の活動について伺うと、「パラグライダーのフライトは天候によって左右され、無風でも風が強すぎても難しいんです。雨が降ったときなどは、お断りするのが心苦しい。そこで、コンディションが好ましくないときは、もずく養殖業者としての海での経験を活かして、シュノーケリング・カヌー・ダイビングなどのマリンスポーツも取り入れたい。せっかく奄美にいらっしやっただお客様に島を十分楽しんでいただけるようにしたいですね」と夢を膨らませています。

パラグライダーを主軸として、山田さんが培った経験をフルに生かし、奄美の自然を空と海から満喫できる新たな観光への挑戦が始まっています。